



令和6年度
文京区学生と創る
アグリノベーション事業
概要説明資料

令和6年9月30日（月）

盛岡市 玉山総合事務所 産業振興課



- 1 盛岡市の農業の現状について
- 2 大学ごとの調査テーマについて
- 3 当事業において学生の皆様に期待すること

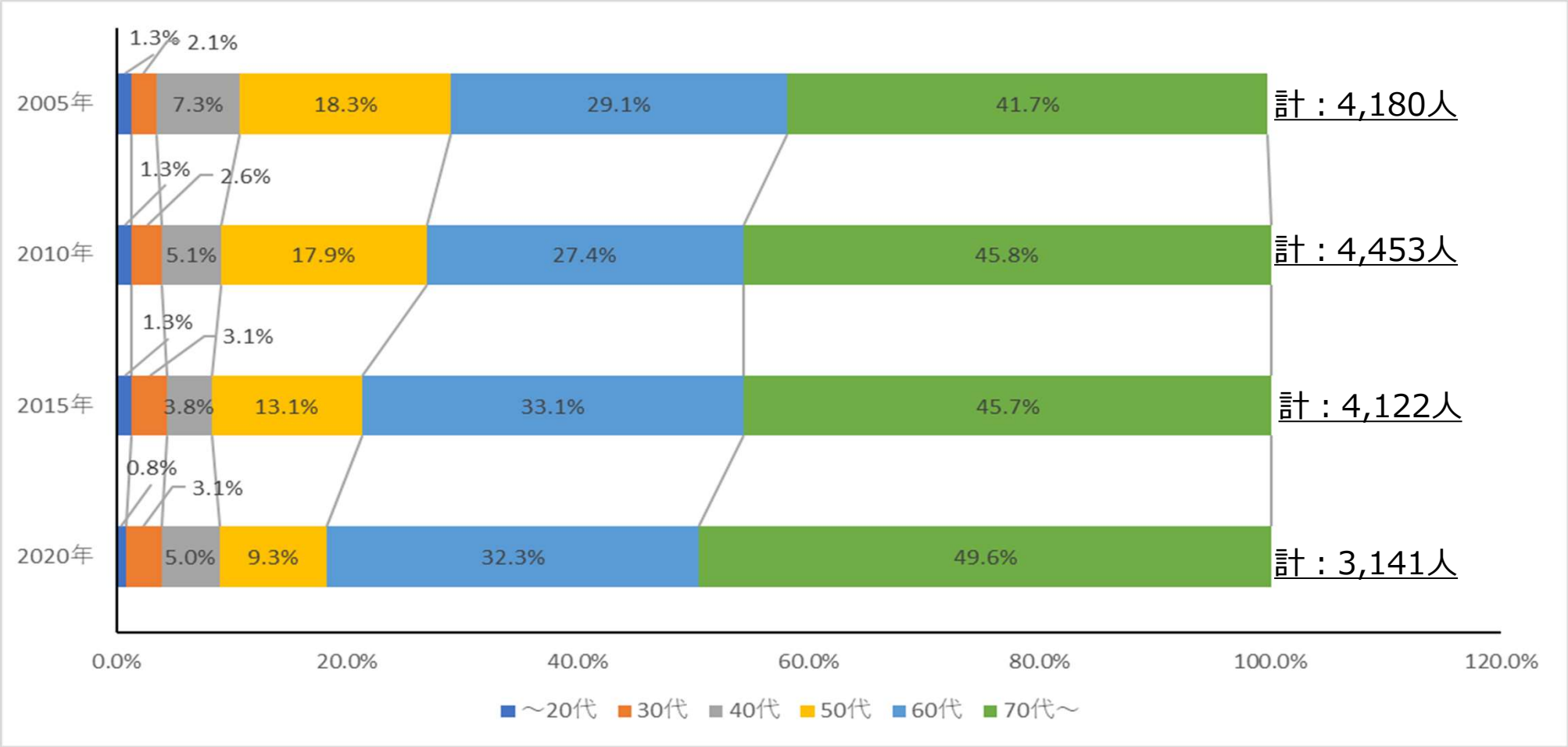


1 盛岡市の農業の現状について



盛岡市の基幹的農業従事者数の推移について

自営農業に主として従事した世帯員のうち、普段仕事として主に自営農業に従事している基幹的農業従事者は、2005 年から 2010 年にかけて増加したものの、以降は減少傾向にあります。また、年齢階層別に見ると、60 代以上の割合が上昇し続けており、2020 年における基幹的農業従事者の平均年齢は、2015 年から1.4 歳上昇し、68.1 歳となっていることなど、農業生産基盤の維持に向けて若手就農者の確保や生産性向上への取組が急務となっています。

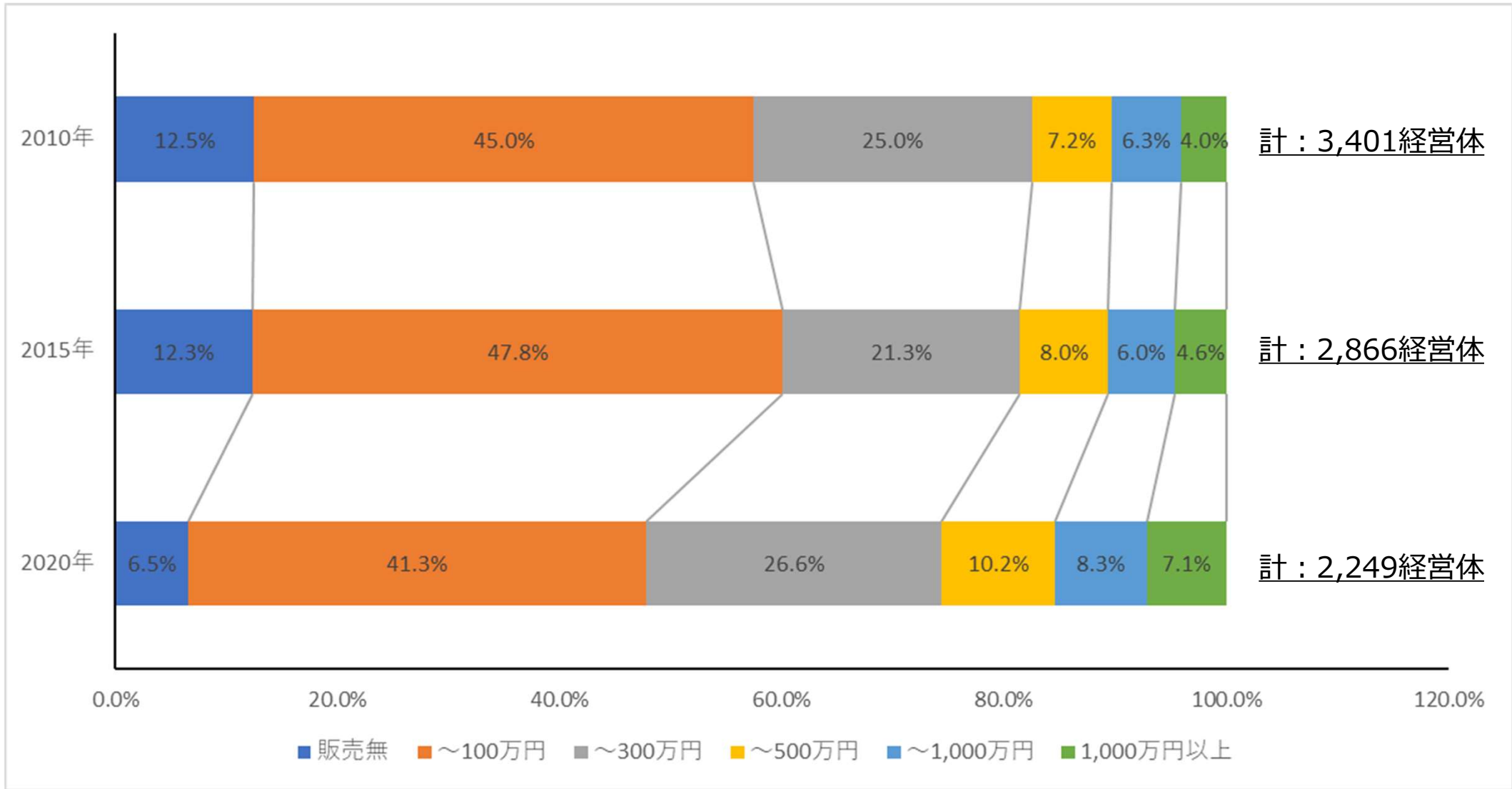


- ・基幹的農業従事者の減少により、農業生産基盤の持続可能性が棄損される危機に瀕している。
- ・後継者不足と著しい高齢化により、担い手不足だけではなく、耕作放棄地の増加等の問題も生じている。



盛岡市の農産物販売金額別農業経営体数の推移について

盛岡市の農業経営体は、2020年時点で2,249経営体であり、2010年の3,401経営体と比較して約35%減少しております。これは農業経営体のほとんどを占める個人（販売農家が主）の減少によるものです。また、2020年は農業経営体2,249経営体のうち、約85%が500万円位以下の販売金額となっています。





【参考】盛岡市の農業に関する意向調査（2017実施）について

市内の農家にアンケートを実施したところ、次の結果が得られました。以下の回答は複数回答方式（マルチ回答）のため、回答率（割合（%））は回答者総数に対する回答数の割合を示しています。従って回答率の合計は100になりません。

地域農業の維持に必要なもの

① 集落・地域の中心となっている経営体(個人・法人・集落営農)に農地を集積する。	24.1%
② 現状維持。	22.8%
③ 農事組合など、法人化による農業経営を進める。	19.3%
④ 青年就農者を育て、農地を集積する。	18.6%
⑤ 認定農業者など、個人の担い手に農地を集積する。	13.6%
⑥ 新たに地域の中心となる経営体を創出し、そこに農地を集積する。	12.2%
⑦ その他	7.9%
⑧ 不明	19.0%

10年後の予想

① 若年の農業者が減少し、高齢化が一層進む。	63.3%
② 農地が利用されず、耕作放棄地が増加する。	35.6%
③ 転出（または離農）が進み、集落・地域による営農が維持できなくなる。	22.9%
④ 地域を支える安定した経営体が減少する。	20.4%
⑤ 何も変わらない。	11.3%
⑥ 問題ない状態。	5.2%
⑦ その他	3.5%
⑧ 不明	10.0%



課題解決に向けた取組について

A 担い手不足の解消に向けた取り組み

農業者の後継者不足に伴う労働力不足が顕著であることから、こうした中で、農業・農村の持続性を高め、食と環境を次世代に伝えていくためには、戦略プロジェクトをはじめ、これまでの取組を推進するとともに、経営規模の大小や中山間地域といった条件にかかわらず、担い手農家、新規就農者の育成・確保に取り組む必要があります。また、農作業の省力化や農業者の所得向上のため、担い手農家への農地の利用集積・集約化を進めるほか、スマート農業などデジタル技術の活用や多様化する国内外の需要に対応する輸出などの取組を推進し、「稼げる農業」の実現を目指し、農業の持続的発展を図る必要があります。

B 農業集落の地域力の強化

農村を維持し、次世代に継承していくために、所得と雇用機会の確保や農村に住み続けるための条件整備、農村における新たな活力の創出といった視点から、「地域政策」による施策を講じ、農村の持続性を高め、農業・農村の有する多面的機能を適切かつ十分に発揮していくことも必要です。良好な営農環境を維持し、市民・地域全体で農の恵みを享受するため、「担い手と兼業農家などが支え合う仕組みづくり」を確立していく必要があります。また、農地の持つ公益的機能の維持向上、また、自然災害、家畜疾病及び鳥獣被害への対応が求められていることから、農村における拠点施設の整備・活用や災害や鳥獣被害対策の強化を行う必要があります。

C 強みを活かす農業の展開

約 30 万人の人口を抱え、かつ、宿泊業・飲食サービス業が集積する県内最大の消費地である強みを活かした農業の展開により、さらなる地産地消の推進を図る必要があります。また、多くの大学や研究機関が存在し、食料品製造業をはじめとした民間企業が数多く立地していることや県内外から多くの観光客が訪れる強みを活かし、農業と商工業や観光など他の産業や大学との連携・協働による盛岡産農畜産物の新たな価値を生み出す取組を強化する必要があります。



2 大学ごとの調査テーマについて





大学ごとの調査テーマについて

当事業へは文京区内 5 つの大学から学生の皆様に御参加いただき、大学ごとに調査テーマを協議の上で選定し、調査・連携を進めております。

大学名（50音順）	参加学部	参加形式	調査テーマ
跡見学園女子大学	観光コミュニティ学部	ゼミ単位	（若手）農業経営者によるグループ化及びグループ活動促進に向けての方策調査研究
拓殖大学	商学部 工学部 政経学部 国際学部	ゼミ単位	・IoTによる農業支援 ・有害鳥獣防除の効果的な手法に関する研究 ・雁喰豆の付加価値の創造に関する研究 ・地域経済の活性化に関する研究
東京大学	農学部	研究単位	日本型直接支払制度及び関連施策の実施状況とその効果に関する調査研究
東洋大学	経済学部	ゼミ単位	新規就農の農業経営体から見る、多角化経営の分析と将来展望について
日本女子大学	家政学部	ゼミ単位	雁喰豆の商品・加工技術の開発について



3 当事業において学生の皆様に期待すること



当事業において学生の皆様へ期待すること

盛岡市が抱える農業分野の課題を題材として、これまでの学習成果の実践の場として実習・検証いただくとともに、地元関係者との積極的なコミュニケーションを通じて、地域農業の未来について地域の当事者が考える機会になればと思っております。

keyword

01

地域外からの視点

- ✓ 日本の最も大きな消費地である、東京都の消費者の視点から見た盛岡市における農畜産物の価値の再定義。
- ✓ 他の産地と比較した場合における盛岡市の農業課題の洗い出し。

keyword

02

既成概念に捉われない
自由な発想

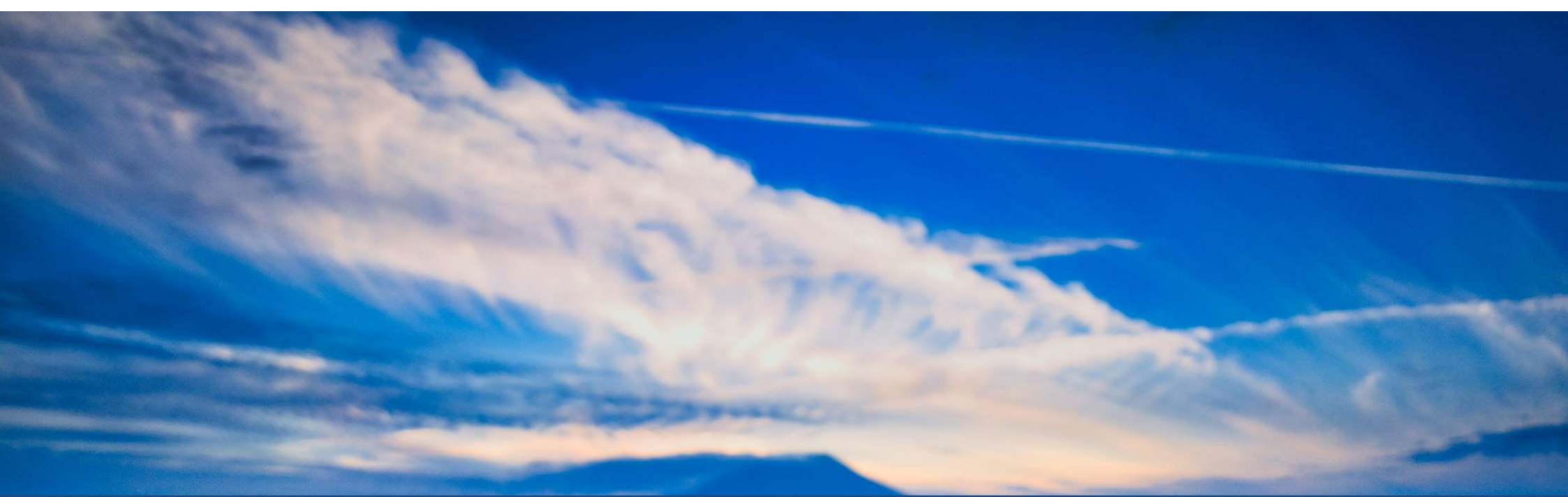
- ✓ 既成概念に捉われない、学生ならではの自由な発想から得られる、盛岡市の農業への示唆。
- ✓ 学生とのコミュニケーションから得られる先端知識等の農業者への知的な刺激。

keyword

03

盛岡市への
興味関心の醸成

- ✓ 当アグリイノベーション事業を通じて、盛岡市に対して興味関心を持っていただけたらと思っております。



下半期も当市にてお待ちしております！

